



音楽療法士の三木和佳子さん



職員と一緒に音に合わせて手拍子



晴れた日には中庭でティータイム。日々の食事だけでなく、おやつも厨房で手づくりだ



音楽療法士の演奏に合わせて、「緑のそよ風」や「七つの子」などを合唱した

## 専門職として 何ができるか 「個別援助計画」を もとに探る

東武東上線みずほ台駅から少し離れると、田畑や住宅が建ち並んだのどかなまちの風景が広がっている。その場所に建っているのが、「みずほ苑」だ。特別養護老人ホームの2階にあるユニットの共用部では、ピアノの音に合わせて歌う利用者の姿が見えた。設立当初から力を入れてきたという音楽療法を、同施設では週に2回、専任の音楽療法士を施設に招いて実施している。共用部に集まって歌う「グループセッション」だけでなく、たとえば寝たきりになって部屋から出ることが難しい利用者のために、音楽療法士が部屋に赴いてセッションする「個人セッション」も実施している。

同施設は、特養86床（従来型50床、ユニット型36床）のほか短期入所生活介護事業所、地域包括支援センターを併設。運営する社会福祉法人美咲会は、「PHILOSOPHY・美しく咲く」「MISSION・だれもが活躍できる社会をつくる」「VALUE・THE MISAKIKAI WAY」の3本柱を法人理念に掲げている。「VALUE」には、「User…ご利用者が安心して過ごせること」「Community…地域と共創し続けること」「We…職員が豊かな人生を築けること」という3つの文言が含まれる。また、「美しく咲く」には「豊かな人生を送ってほしい」という願いがこめられている。

施設の日常生活では、理念を「個別ケア」の実践に反映。たとえば、同施設ではケアプランのほかに、これまでどのような生活を送っていたのか情報を得て作成する「個別援助計画」を導入している。ケアプランは職種を跨いだ横断的な計画だが、個別援助計画はより介護福祉士の専門性に特化した内容になっている。

「施設での暮らしは、これまで過ごしてきた生活の延長だと捉えています。他の職種に比べて、介護福祉士はご利用者の生活を把握している職種だと思っていますので、介護職としてどう対応するかを決める計画となっています」と、相談係長の松田拓矢さんは説明する。

ほかにも、入居時には家族の協力も得ながら「興味・関心シート」を作成。そこから得た情報をもとに、たとえばユニット内で掃除をしてもらう等の役割を担ってもらったり、どんな歌が好きなのか音楽療法士と共有して、個人セッションで扱う音楽の参考にしたりしている。

個別ケアを行ううえで、利用者や利用者家族との「信頼関係」が基本。そのため、利用者家族には正確な情報開示を心がけている。良いことだけでなく、たとえば何か事故が発生した等悪いこともすべてこまめに連絡を取り合い、施設の「見える化」に取り組んでいるのだ。当たり前の対応ではあるが、それが結果として施設の口コミにもつながっているという。

続きは、本誌7月号をご覧ください